1月を振り返る

早いもので、今日で2020年1月も終わる。なんだか、この1ヶ月間を振り返りたくなった。

写真は「定点観測」している自宅6階ベランダからの朝焼けの空。最初の写真は元旦7時9分の日の出。初日の出にふさわしい景色である。次は25日7時1分と9分。生駒山あたりに広がるこま切れの雲、まっすぐに伸びる光線が印象的だ。その下は28日7時2分。雲の様子がなんとも言えない。

こうして生駒山を眺めながら、朝晩にストレッチ体操をおこなう。今年も「日課」にしたい。

この1月は原稿に追われて過ぎていった感じだ。一昨日になんとか書き上げ、原稿を送ることができた。昨年暮れから作業をしてきたが、宮本憲一先生の「しごと」、なかでも『社会資本論』を中心に、先生の社会資本研究の足跡をたどる旅である。

久しぶりに『社会資本論』などを読み返し、その現代的意義と課題をまとめる作業。『社会資本論』は何回も読んできたが、何回読んでも新しい発見がある。それが古典といわれるものであろう。つい引き込まれてノートをとり、関連文献にあたり考えをめぐらし、思いのほか時間がかかった。

それにしても松本城近くの書店でたまたま『社会資本論』に出会い、研究者としての道を歩むことになった。当時、社会資本という言葉も知らず、「資本論」の前に「社会」がつく変わったタイトルの本と思い、書棚に手をのばした。

私の運命を左右した『社会資本論』である。それから半世紀の月日が流れて、宮本先生の「しごと」を振り返り、研究会に参加して先生のとなりに座っている。人生って、不思議なものだと痛感する。

『社会資本論』初版は1967年に刊行されたが、私はその年に大学に入学した。マルクス『資本論』を読む会に参加して、政治経済や社会への関心を高めた。4年の夏ごろ、松本城近くの書店で『社会資本論』と出会った。下宿に帰って読みはじめると、難解ではあったが、日本資本主義と社会資本の展開などに吸い込まれた。宮本憲一先生のもとで学ぼうと、大阪市立大学の大学院をめざした。2年浪人して、大学院の宮本ゼミの一員として堺・泉北コンビナートの共同研究に参加した。……

（2020年1月31日）